

ほかんけんだより



海ごみについて考えよう！

海ごみとは、漂流ごみ（海を漂っているごみ）や、漂着ごみ（海岸に流れ着いたごみ）、海底ごみ（海底に沈んだごみ）のことです。海ごみのなかでも特にプラスチックごみは、世界で毎年数百万トンを超える量が海に流れ出ており、このままでは2050年までに魚の重量を上回ると予測されています※1。

※1 THE NEW PLASTICS ECONOMY RETHINKING THE FUTURE OF PLASTICS（エレン・マッカーサー財団、2016年）



海底に沈んだプラスチックごみ



海岸に打ち上げられたごみ

博多湾の海ごみ（漂着ごみ）を調べました

調査方法

令和元年6月23日に開催されたラブアース・クリーンアップ※2の海岸清掃で集めたごみの一部を分類し、その分類ごとに個数や重量を調べその割合を明らかにしました。調査は福浜海岸（中央区）と生の松原海岸（西区）の2地点で行いました。

※2 市民・企業・行政が協力し、海岸や河川などを一斉清掃する地域環境美化活動

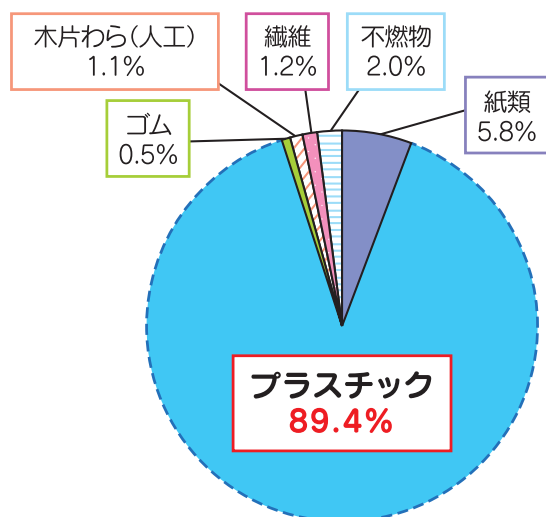


調査結果

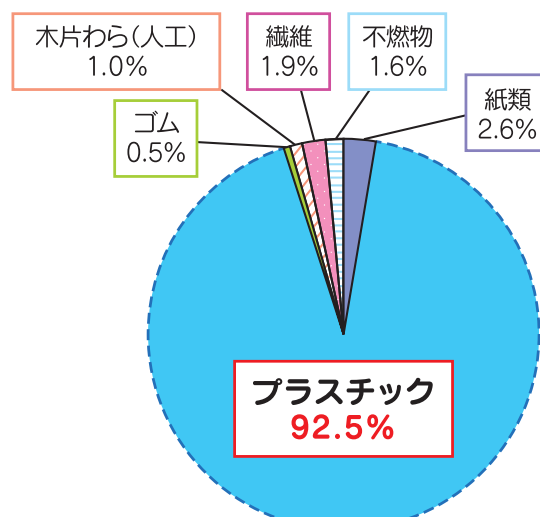
下のグラフに示す通り、どちらの地点でも**プラスチックごみ**が多く、個数割合で**約9割**を占める結果となりました。このプラスチックごみの内訳について、さらに詳細に調べました。（裏面）

漂着ごみの個数割合

福浜海岸



生の松原海岸



ラブアース・クリーンアップの様子

プラスチックごみの内訳

各調査地点のプラスチックごみをさらに分類したところ、個数割合では食品などの日用品の包装に使用される**容器包装プラスチック**が半数以上を占めていました。重量割合でみると**ペットボトル**や**レジ袋**なども多く、日常生活で使い捨てにされるものが多いことが分かりました。

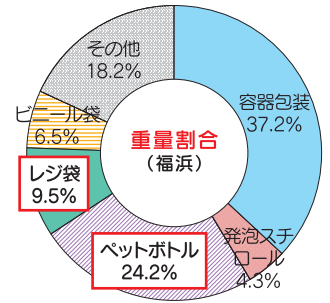
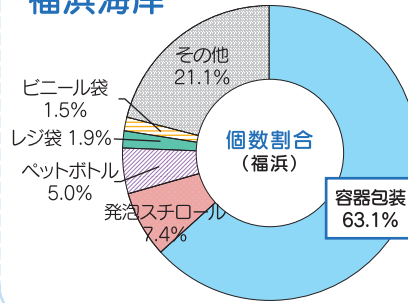


ペットボトルごみ

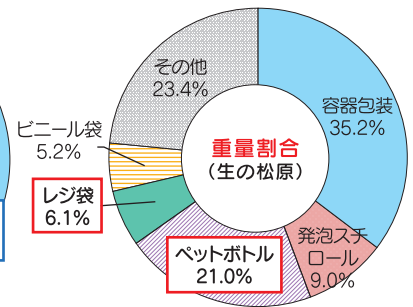
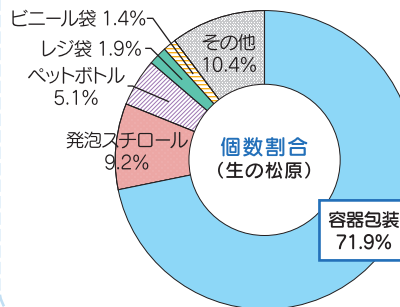


容器包装プラスチックごみ

横浜海岸



生の松原海岸



海ごみにはどんな問題があるの？

生きものへの影響

海の生きものが海ごみを**エサと間違えて食べてしまい**、死んでしまうことがあります。



漁業への影響

漁業者の網に海ごみが引っかかり**漁業の妨げ**になります。

特にプラスチックごみは・・・

分解されにくい

プラスチックは自然に分解されにくく、素材によっては**自然分解されるのに数百年**もかかるといわれています。一度海ごみになると、とても長い時間海に残り続けることになります。

マイクロプラスチック

プラスチックごみは、長い時間、海を漂う間に、太陽光や波の力などでだんだん砕けて、**マイクロプラスチック**(5mm以下の破片)になります。マイクロプラスチックになると**回収が困難**で、有害物質を吸着しやすいといわれており、生きものへの影響などが心配されています。

海ごみを減らし、海を守っていくために

私たちの生活の中で出たごみの一部が側溝や川などを通り、海に流れ出て海ごみとなっています。福岡市では、市民や漁業者、行政等による海ごみの回収を行っています。しかし、すべてのごみを回収することは難しいため、海ごみを増やさないようにすることが大切です。

- ・「使い捨て」を見直し、**ごみ自体を出さない生活**を心がける
- ・屋外でごみを放置せず、**適切に処理**する
- ・**清掃活動に参加**する

など、一人ひとりが自分にできることに取り組みましょう。

マイバッグやマイボトルの活用



積極的にリサイクル



編集・発行 福岡市保健環境研究所

〒810-0065 福岡市中央区地行浜2丁目1-34
TEL : 092-831-0660 FAX : 092-831-0726
E-mail : hokanken.EB@city.fukuoka.lg.jp
URL : <https://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/hokanken/>



ホームページもぜひご覧ください！